【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成19年12月6日(2007.12.6)

【公表番号】特表2007-513159(P2007-513159A)
【公表日】平成19年5月24日(2007.5.24)
【年通号数】公開・登録公報2007-019
【出願番号】特願2006-542652(P2006-542652)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｆ　15/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｆ　15/00　　Ｅ

【手続補正書】
【提出日】平成19年10月16日(2007.10.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ハロゲン化イリジウム錯体と銀塩及び過剰の有機シクロメタル化配位子とをジオール溶剤中で反応させることを含む有機金属シクロメタル化イリジウム化合物の形成方法。
【請求項２】
前記ジオール溶剤が１４０～２２０℃の範囲内の沸点を有する請求項１に記載の方法。
【請求項３】
前記ジオール溶剤が２～６個の炭素原子を有する請求項１に記載の方法。
【請求項４】
前記ジオールが芳香族ジオールである請求項１に記載の方法。
【請求項５】
前記芳香族ジオールがカテコールである請求項４に記載の方法。
【請求項６】
前記ジオール溶剤が１，２－プロパンジオール、１，３－プロパンジオール及び１，３－ブタンジオールから成る群から選ばれる請求項１に記載の方法。
【請求項７】
前記ジオール溶剤がエチレングリコールである請求項１に記載の方法。
【請求項８】
前記銀塩がテトラフルオロホウ酸銀、トリフルオロ酢酸銀又はトリフルオロメタンスルホン酸銀から選ばれる請求項１に記載の方法。
【請求項９】
前記ハロゲン化イリジウム錯体がヘキサクロロイリジウム酸（III）三カリウム、ヘキサブロモイリジウム酸（III）三カリウム、塩化イリジウム（III）水和物、臭化イリジウム（III）水和物、ヘキサクロロイリジウム酸（IV）二カリウム及びヘキサブロモイリジウム酸（IV）二カリウムから選ばれる請求項１に記載の方法。
【請求項１０】
橋架けハロゲン化物を含有する二量体イリジウム錯体と銀塩及び有機シクロメタル化配位子とをジオール溶剤中で反応させることを含む有機金属シクロメタル化イリジウム化合物の形成方法であって、前記二量体イリジウム錯体が式（１）：

$$L_2Ir(\mu-X)_2IrL_2 \qquad (1)$$

（式中、Ｌは二座シクロメタル化配位子であり、Ｘはハロゲン化物である）
により表わされるものである、有機金属シクロメタル化イリジウム化合物の形成方法。
【請求項１１】
L_2IrX型の錯体（ただし、Ｌは金属－炭素結合及び金属－窒素結合を形成するシクロメタル化配位子であり、Ｘは金属－炭素結合を形成しないモノアニオン性二座配位子である）を過剰の有機シクロメタル化配位子とジオール溶剤中で反応させることを含む有機金属シクロメタル化イリジウム化合物の形成方法。